

「 棚田の素晴らしさと団塊 」 (協同組合通信/風雪弾) 平成 19 年 12 月 6 日

我が国の文化や日本人の精神の深層にある原風景の一つは棚田であろう。棚田百選を見ると、東北から南国までの広い範囲に点在し、その一つ一つが特色を持ち、全てが素晴らしくため息の出そうな大自然に息づく景観美。

海岸から一段一段耕し急峻な山頂近くまで至る千枚田の異名があり、日本農業の厳しい労働の代表とされてきたのが棚田。地域のひたむきな農家に支えられ長き時を経て勝ち得てきた耕作地。旅人を厳かにし、心に迫り来る真実の景色である。

人は旅に出て初めて様々な真実を知る。各地の見返り坂や富士見峠など、頂上から展望する雄大な景観の眺めに郷愁があり、一時を憩いて今歩いてきた道を振り返る。

そのような高見の棚田だから、お百姓さんがその日の野良仕事の手を休め、夕日に彩られる夕間暮れの一瞬に生を感じていられるのではないだろうか。他人には決して窺い知れない、丹精こめた大自然の中に生きている強き者だけが知りうる静寂があるに違いない。

そして、この棚田には沢山の素晴らしい効用がある。今夏も、集中豪雨や台風により、土砂災害で数多の貴重な農業資源や生命が損なわれてしまった。毎年繰り返されているのに、対策が追いついていない。棚田には、このような土砂災害を防止する偉大な機能があることを真剣に見なおし評価する必要がある。そして、多様な生物が生息することが可能な国土であり、地域のブランド農作物を産することも出来る開拓地だ。

親日的な国とも、F T A交渉で予断を許さない局面を迎えてきた。全ての農産物を死守するために、近代的な大規模圃場は必要だ。一方、棚田の畦畔に育つ土地固有の動植物は、オンリーワン商品となりうる数少ないわが国の強み。日本人の心のふるさとと言える棚田を管理保存するために、今こそ、心も金も時間もある団塊の協力が是非とも必要だ。

戦後の厳しい生存競争を生き長らえてきた団塊世代は、そのことだけでも誇れる価値と存在の重みがある。これからの人生を、家族のためにも健康に留意し、我が国の環境と国土の維持保全をもたらす棚田を守っていただきたい。

(気象情報システム株式会社 高 津 敏)